様式3

学 校 番 号

32

令和 5 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立水産高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画（4月）

学校運営方針	生徒に国家・社会の有意義な形成者となるための「知・徳・体」調和のとれた教育を施し、確かな学力を育成し、他者との関わりの中で自己の在り方・生き方や使命感を自覚させ、心豊かで力強い生き方ができる人間の育成に努める。		評　価（総　合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
（成果）県内唯一の水産高校として、コロナ禍の制限の中、産業教育フェアや地域交流イベントなどに積極的に参加し、本校の魅力をアピールした。本校の特色を象徴する水高祭は感染対策を施し、家族に限った来場で開催することができた。基礎学力定着のための「朝学習」を継続的に実施することで、希望進路実現を早期に達成することができた。九州地区の生徒研究発表大会は、代表生徒がすばらしい発表を行い生徒会が進行を務め、盛会に終わることができた。 （課題）　学校行事、地域交流など、本校の特色ある教育活動をコロナ禍以前に戻し展開することが課題である。「いじめは絶対に許さない」を合い言葉に学校生活アンケートの実施や、いじめのサインを見逃さない教育活動を引き続き展開する。生徒の心の安定をはかり教育力向上を目指す。また、生徒一人一人が安心・安全で「居場所」のある学校生活ができる学校づくりを推進する。基礎学力の向上のために毎日15分間の「朝学習」において、きめ細かな指導を粘り強く行い、生徒一人一人の進路を実現する。『海に学び食に学ぶ　水高』及び『 海を拓き 世界を興せ』（本年度：創立70周年記念事業スローガン）のもと、生徒一人一人が輝く人材を育成する。職員及び生徒が創立70周年記念関連行事の意義を十分に理解して取り組み、校訓の「自立　敬愛　創造」の精神を体感することで、誇りや帰属意識の向上につなげる。	基礎・基本的な知識や技術の確実な習得と主体的、対話的で深い学びを実現し、水産教育を通して、水産や海洋産業、地域社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する。（学習指導）	○日々15分の「朝学習」をもとに、予習・復習、家庭学習の習慣化を図り、生徒の実態に即した授業展開、定期考査問題作成、放課後課外等を行い、学力向上を目指し確かな学力を育む。 ○資格課外の充実を図り、専門分野の知識・技術を生かした資格取得をめざすなど、生徒の希望進路実現・自己実現を支援する。 ○生徒がチャレンジする機会を多く設け、目標に向かって取り組んだ過程や結果を認める（ほめる）ことで真の達成感を味わわせ、さらなるチャレンジ意欲を向上させる「鍛ほめ福岡メソッド」を実行する。	A
	社会性、倫理観、コミュニケーション能力、他者との関わりの中で生きていることの自覚等を育成する。（生徒指導・道徳教育）	○本校で「何をしたいのか」、「何をすべきなのか」、「何を目指すべきなのか」を問いかけ、生徒との信頼関係のもと、毎時間の授業を充実させた教科指導とともに、より良い人間関係づくりにつながる生徒指導を展開し、『日本一の水産高校』を目指す。 ○いじめ防止基本方針のもと、いじめの撲滅や差別を見逃さない組織づくり、校内並びに実習船「海友丸」の危機管理等、『生徒一人ひとりが「安心」「安全」で、「居場所」ある学校づくり』を推進する。 ○本校の強みを生かし弱みを改善するために、各教科間の連携的な取組に加え、教員、生徒、保護者、地域などが、『チーム水高』として目的を強く共有し、常に目の前の生徒に寄りそった、スピード感ある教育活動により、ワンランク上の目標達成を目指す。	
	水産業を魅力とやりがいのある産業として認識させ、高度な技術の学びの場や国際交流等を通してキャリア教育を推進する。（進路指導）	○新しい時代に求められる資質・能力を育むために「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、ICTを活用した教育をさらに推進し、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」について教職員が理解を深め、「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善を行う。 ○水産・海洋関係、地域連携の諸行事に多くの生徒を参加させ、わくわく活き活きするような活躍の場を与え、学校を牽引するリーダーを育成するとともに、その活動の様子や成果を本校ホームページ上に定期的に更新するなど、積極的に広報する。	
	基礎体力や物事をやり抜く忍耐力や責任感を育成する。（健康教育）	○「体力向上プラン」により、基礎体力を向上させ、学校と家庭、地域社会が連携・協力し、生徒の心身の鍛錬に努める。 ○健康・安全に関する意識を高めさせるとともに、心身の調和的発達を図る。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部 教務課	基礎・基本的な知識や技術の確実な習得	チャイムtoチャイムを徹底し、規律ある授業を行う。	B	A	A	・安心・安全な「居場所づくり」に配慮した授業展開を行う ・観点を踏まえた評価規準の作成と考査問題の改善・充実を図る ・指導と評価の一体化を図り、授業改善及び学力向上を目指す
		生徒に実態に即した授業展開、定期考査問題を作成し、学力向上を目指す。	A			
		指導と評価の一体的な改善を行い、生徒の学ぶ意欲を育む。	A			
	主体的、対話的で深い学びの実現	アクティブラーニングなどを活用した生徒がわかる授業を展開できるように授業改善を行う。	A	A		・新学習指導要領の年次進行を確実に行う ・ICTの積極的な活用を推進する ・研修図書課と連携し授業改善のための研修の充実を図る
		ICTの積極的な活用と指導方法・指導体制の工夫改善を通じた新たな学びを推進する。	A			
		研修図書課と連携し授業改善のための研修を実施する。	A			
教務部 企画広報課	水産高校への関心を高める広報活動の推進	本校の魅力が伝わるよう学校案内等のデザインを工夫する。	B	B	A	・学校案内はデザインを変更する ・中学校訪問の学区を再検討する
		メディアで本校が取り上げられた際、生徒にも情報提供を行う。	B			
		中学校訪問の在り方を工夫し、本校の魅力を伝わりやすくする。	B			
	PTA活動や一斉メールなどの情報提供により、保護者との連携の充実	一斉メール等を活用し、保護者との連携を密に図る。	A	A		・PTA役員会の実施日程を削減し、事前打合せを行う ・PTA日帰り研修の時期を変更する
		PTA役員会、総会の運営を的確に行う。	A			
		学校のホームページを見やすいものにし、頻繁な更新を行う。	A			
生徒指導部 生徒指導課	基本的生活習慣の確立	服装・頭髪検査を月1回定期的に実施し、身だしなみ意識の向上を図る。	B	A	A	・登下校、授業の開始終了時に全職員で率先垂範して挨拶指導を実施する ・集会や各行事、部活動において時間厳守を徹底させメリハリのある学習活動を行う
		学校生活全般において全職員が率先垂範して挨拶指導をする。	A			
		集会や各行事において時間を設定された時間を厳守する習慣をつくる。	A			
	いじめを許さない学校づくり	月1回のアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応を組織的に行う。	A	A		・指導に困難を要する生徒には、複数で指導を行い、情報共有を密に行う ・生徒に多くのことに挑戦させ与えられた役割を達成できた際には、賞賛の場を積極的に設定する
		生徒指導には複数の教員で対応し、事前事後の情報共有を組織的に行う。	A			
		集会や行事において生徒を称賛する場を設定する。	A			
生徒指導課 保健環境課	情報発信と環境衛生保全のための確認・報告	生徒保健委員会を指導し、保健便りの発行を行う。	A	A	A	・環境保全を含めた、教育環境の整備を徹底して実施する
		環境衛生検査（水質・照度検査）を実施し、環境保全に努める。	A			
		保健委員会を指導し年2回安全点検を実施し、教育環境を整える。	A			
	心身の健康保持増進	うがい・手洗い・換気等基本的感染症対策を推進する。	B	A		・生徒保健委員会を活かし、継続的に基本的感染症対策の推進に取り組んでいく
		心身の健康を把握し、生徒指導・教務・SCと協力し学校生活を支える。	A			
		魂の清掃を設定し、美化委員会活動を通じ美化意識の向上を図る。	A			
進路指導部 進路指導課	進路実現満足度100%の達成	企業訪問等を実施し、求人開拓を積極的に行う。	A	A	A	・企業の求める人材の情報を共有し、9月の就職決定率を90%以上にする
		進学希望者への確実な情報提供と、個別指導の実施。	A			
		生徒・家庭によりそう進路指導の実施。	A			
	キャリア教育の充実	10年後の自分の姿を考えさせる講話やガイダンスの実施。	A	A		・1、2年生次から進路を見据えて学校生活が送れるよう、今まで以上の情報を発信する
		時代に応じ、未来を見据えた職業観の涵養。	A			
		費用対効果を考慮した資格取得情報の精選と提示。	B			
研修図書課	校内研修の充実	相互授業参観週間や研究授業等で授業研究・授業改善を図る。	B	A	A	・相互授業参観の実施時期を変更し、参加率が上がるようにする
		教育センターキャリアアップ講座等への参加を奨励する。	A			
		時代の変化を踏まえた効果的な研修を実施する。	A			
	図書館利用の促進	図書館資料・蔵書の充実を図る。	A	A		・古い書籍の整理を進め、新しい書籍の間を開けられるようにする
		図書委員会活動の活性化を図る。	A			
		夏休み中の図書委員合同研修会への参加を奨励する。	A			

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・アフターコロナになり、生徒への授業は対面とEラーニング併用と思われるが、この状況の中基礎学力を付けていることを評価する。 ・A評価が多く課題が見えないが課題はないでしょうか？
A	・校長をはじめ幹部が率先して水高の広報活動を行っていることを高く評価する。 ・ホームページが充実しています。
A	・最近の生徒の行動は福津市内の住民から高く評価されている。太郎丸交差点の遠賀信用金庫の支店長からも評価を受けている。 ・自転車通学についての項目を入れる必要はないでしょうか？
A	・コロナやインフルが校内で流行る中、保健指導に対しても高く評価する。
A	・企業が求める人材として本校が高く評価されていることは求人者数からも見てとれる。
A	・とかくDXに向かっている時代であるが紙ベースの媒体は基本であるので、図書管理用・充実を評価する。 ・図書館などでは、電子書籍の活用など考えてはどうでしょうか？

第1学年	基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻・早退を減らすため体調管理を徹底させる。	B	A	A	・3年次の就職を見据えて遅刻欠席の回数を減らせるよう指導していく	A	・1年生はアフターコロナの時代に入りしばらく生活習慣や基礎学力の向上が見えてきた感が有り高く評価する。 ・中学校の学び直しは、具体的にどのようにしているか知りたい。
		挨拶、返事を徹底する。	A					
		家庭との連絡を徹底する。	A					
	次年度に向けた基礎学力の定着	中学校の学び直しをする。	A	B		・朝学習の内容が定期考査や専門分野の勉強に繋がるようにする		
		朝学習を有効活用する。	B					
		提出物を徹底させる。	B					
第2学年	進路先決定に向けた支援	進路が未確定の生徒に対し、相談し、進路先を決める。	B	B	A	・就職、進学試験に向けた取り組みを行っていく	A	・2年生は、進路問題や人としての成長、時期に当たり伸び伸びとした姿勢が見受けられる。 ・生徒に対して一層に寄り添った指導をして欲しい。
		進路先の情報提供を積極的に行い、選択肢を広げる。	B					
		会社見学など積極的に取り入れる。	B					
	人間力の育成	基本的生活習慣の確立。	A	A		・行事や普段の学校生活を通し、個人のコミュニケーション能力の育成を図る		
		礼儀、作法の指導を徹底する。	A					
		コミュニケーション能力の育成を図る。	B					
第3学年	進路指導の充実	進路に対する興味・意欲を喚起するため、卒業生の進路の話を積極的に取り入れ、進路情報を提供する。	A	A	A	・資格取得、進路意識を持たせる	A	・3年生は、進路指導等大切な時期に迎え水高生の成長は内外で高く評価されている。
		進路指導室を活用させ、進路に対する意識を持たせる。	A					
		年内、進路決定100%を目指す。	A					
	学年内の情報共有と連携	遅刻、欠席者及び気になる生徒の保護者、担任団と緊密に連絡を取り合う。	B	B		・遅刻・欠席を少なくする		
		早い段階で家庭訪問を行い、家庭での様子を伺い、連携を行う。	B					
		1年後の進路実現を目指し、忍耐力を持たせる指導を行っていく。	B					
海洋科 航海コース	将来の船員として必要な力の向上	海技士国家試験（筆記）合格者を複数出す。	B	A	A	・海技士国家試験合格へ向けた組織的な取組の実施	A	・海技士試験の対策や初めての乗船実習で一皮むけた成長を見受けられ嬉しく思っている。
		乗船前指導、乗船後の指導を継続して行うことにより乗船実習を実りあるものとする。	A					
		海友丸、2県との連携を密にし、乗船教育の充実をはかる。	A					
	3年間を見通し、計画的な希望進路の実現	船員としての適性を考慮した効果的なコース選択の道筋をつける。	A	A		・専門教科を通じて船員として必要な知識・技術及び態度を身に付けさせる		
		船員への就職率70%以上をめざす。	A					
		専門教科を通じて船員として必要な知識・技術及び態度を身に付ける。	A					
海洋科 機関コース	専門知識・技術の習得資格取得	教材研究を十分に行い、生徒が興味を抱く内容を盛り込んでいく。	A	A	A	・資格取得を奨める	A	・機関コースも同様で上記のとおりである。定員により乗船できない生徒には申し訳なく思料される。
		実習内容を見直し、生徒が積極的に取り組み、技術の向上を目指す実習とする。	A					
		積極的に資格取得を奨励し、1年間に3つ以上の資格取得を目指す。（3つの資格取得）	A					
	水産業の技術発展	水産業を魅力とやりがいのある産業として認識させるため、日本の水産業についての教育を推進する。	A	A		・進路意識を持たせる		
		新しい技術についても学びを怠らず、新しい技術習得に努め、生徒を育てる。	A					
		水産業や、海洋産業に貢献できる人材育成。	A					
海洋科 マリン技術 コース	事故を起こさない知識・技術・体力の育成	基本の水泳を徹底的に行い、水中で事故を起こさない人材を育てる。	A	A	A	・プールの実習が限られる中で基本的な水泳技術を身に付けさせる工夫	A	・最近、水高で脚光を浴びているマリン技術コース ・地域と連携した環境問題、防災への取組みを一層に期待したい。
		様々な事故を想定した訓練を行い、セルフレスキュー能力を身に着ける。	B					
		実習に臨む態度とバディとの信頼関係を育て、事故を未然に防止する。	A					
	海を守る意識の育成	水中を観察できる能力を海を守ることにつなげられる知識を身に着けさせる。	A	A		・地域と連携した環境問題への取り組み		
		地域での海を守る取り組みへ参加し、海とともに生きる意識を育成する。	A					
		潜水と自然破壊の関係性について教え、どうすればよいか考えさせる。	B					
食品流通科	食品に関わる職業人としての資質の育成	総合実習を通して食品を扱う上での衛生感覚を養う。	A	A	A	・HACCPシステムを導入した衛生管理	A	
		販売実習を通して礼儀、接客マナーを学ぶ。	B					
		学習への意欲・目標を持たせ、食品に関する知識を習得させる。	A					
	希望進路の実現	企業と連携し商品化を目指す。	A	A		・地域と連携した新商品開発		
		企業見学などを行い、進路意識を高める。	A					
		総合実習を通して食品業界の職業観を養う。	A					
アクアライフ科	社会人・水産人としての資質の育成	挨拶・服装・言葉遣い・時間厳守の指導を徹底する。	B	A	A	・企業から欲しがられる人材の育成（挨拶・礼儀・人間力） ・教育課程の検討	A	
		命の大切さと安全に対する意識を身に付けさせる。	A					
		生物飼育、漁具製作などの体験活動を多く取り入れる。	A					
	地域との連携	地域と連携した活動を多く取り入れる。（漁業体験・竹林整備等）	A	A		・進路先の確保（県内水産業） ・地域との更なる連携方法を模索		
		地域資源を活用する。（水産・農業・土地・風土　等）	A					
		イベント等、地域貢献活動に積極的に参加する。	A					
事務室	予算の効率的な執行	効果的・効率的な予算執行に努める。	B	A	A	・限られた予算の中で効果的・効率的で偏りのない予算執行に努めたが予算の確保が課題	A	
		光熱水費の削減に努める。	A					
		偏りのない予算執行に努める。	A					
	生徒及び教職員の安全管理・環境整備の充実	不良・危険箇所に対し速やかに対応する。	A	A		・職員間で校内外及び寄宿舎において危険個所等の情報共有をより密に行うことが課題		
		校舎を巡回し、危険防止策を講じ、事故等を未然に防ぐ。	A					
		職員間での危険個所等の情報共有を密に行う。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・アフターコロナの時代に入り、水高生として本格的なさらなる成長を期待しています
・創立70周年の一致団結した活動を今後にも生かしていただきたい
・先生及び職員の皆様は、県下一校としての使命を感じて、絶え間ない生徒指導についても高い評価をしています
・取組指標だけでなく成果指標についても知りたいと考えます

評価項目以外のものに関する意見

・水高及び水高生を誇りに思います
・グランドデザインにある「地域連携」「国際交流」等の評価項目も設定してみてはどうでしょうか